

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470600717	事業の開始年月日	平成16年3月1日
		指定年月日	平成16年3月1日
法人名	社会福祉法人 幸済会		
事業所名	高齢者グループホーム かわしまの園		
所在地	(240-0041) 横浜市保土ヶ谷区東川島町14-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年1月6日	評価結果 市町村受理日	平成27年7月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 旅行や外出レク、お祭りなどの年間行事に力を入れています。また、近所に商店街があり、ご本人の希望に応じて日常の買物や散歩を行って社会性の維持、回復を援助しています。
2. 地域との交流を大事にして、定期清掃や行事への参加の他、小中学校との交流なども積極的に行っています。
3. 医師である法人の理事長が、入居者様の主治医となり受診や往診を行うと共に、他の協力医療機関ともしっかり連携体制をとって、身体不調の早期発見と疾病への対応に努めております。これにより、医療面での不安が減り、安心して生活していただけます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年2月24日	評価機関 評価決定日	平成27年5月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 <p>高齢者グループホームかわしまの園は、相鉄本線西谷駅から徒歩10分ほどの戸建て、集合住宅が混在する住宅街にある。隣駅の上星川からも徒歩15分程度である。目を引くピンク色の2階建て建物は、中庭を中心とした回廊造りになっており、車いす対応のエレベーターが設置されている。居室の窓はベランダに続く掃きだし窓となっており、開放感がある。セラピー犬としてミニチュアダックスフンドを飼っており、訪問の際は愛想よく出迎えてくれる。</p> 【医療連携体制】 <p>事業所の向かい側に法人理事長が院長を勤める診療所があり、内科、心療内科、皮膚科、理学療法を受診、相談がいつでも可能である。また同医師による月1回の事業所への訪問診療と共に、必要により専門病院への紹介も行なわれている。同診療所の訪問看護師が週1回来訪し、利用者の健康管理に当たるほか、職員と毎日利用者の健康状況について連絡を取り合っている。同診療所とは24時間連絡が取れる体制を構築している。</p> 【外出行事と地域交流の充実】 <p>法人主催の春、秋の一泊旅行、イチゴ狩りをはじめ、花見、川崎大師詣、外食など事業所独自の催しがあり、ほぼ毎月外出行事を実施している。加えて夏祭り、町内の運動会見学、防災訓練、地域清掃への参加など、地域との交流も充実している。節分には利用者、職員が鬼の役になり近隣の保育園を訪問するなど、子供たちとの交流にも取り組んでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	かわしまの園
ユニット名	けやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念と、サービスマナーに関する月間目標を掲げ、毎朝礼時に職員皆で復唱して、ケアにつなげている。	3項目からなる法人理念に管理者が具体的解説を付加したものを事業所理念としている。理念に沿って研修を実施している。また朝礼で唱和し、職員間の共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りや運動会など行事参加や、保育園や小中学校との交流機会を、定期的に行っている。 3ヶ月に1度地域の清掃に参加している。	町内会に加入し行事に参加している。夏祭りには子供神輿が立ち寄ってくれる。中学生の体験学習を受け入れている。小学生の学校行事「町の探検」では低学年の児童の来訪がある。保育園とは双方向で交流している。習字の講師、コーラスなどのボランティアの協力がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の地域ケアプラザにて、認知症とグループホームについての講座を行い、一般参加者の施設見学も受け入れている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施し、活動状況を報告し委員の意見を伺って、サービスの改善に努めている。	家族、利用者、民生委員、町内会長、地域包括支援センター職員参加の下、2ヶ月に1回開催している。事業所の運営報告のほか、地域の防災、地域行事に関する案件などが討議されている。外部評価の結果もこの場で報告されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録を担当係長に持参報告。また、生活保護担当ケースワーカーと緊密に協力して、入居者の処遇に当たっている。	市の担当窓口とは事故報告を通じて連携している。横浜高齢者グループホーム連絡会のブロック会に出席している。また交換研修にも職員が参加した。要介護認定更新の機会に区の担当者や情報交換している。生活保護受給中の利用者の担当ケースワーカーとは密に連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関前はすぐ道路で交通量が多いため、安全の為玄関を施錠している。その他に身体拘束は行っていない。勉強会を通じて職員の意識も高めている。	利用契約書に身体拘束は行わないことを明記し実践している。法人主催や系列グループホーム合同で、事例に基づいた研修を実施している。ユニットの出入り口は施錠していないが、玄関は接する道路の交通量を考慮し、家族の了解の下、施錠している。外に出たい素振りの利用者に対しては、職員が付き添って外に出るなどの対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止の強い決意を持ち、虐待に付いての職員勉強会を実施している。また、日々のケア現場でこまめに助言を行っている。また、サービスマナー向上の取り組みを、継続的に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	3名の入居者様が後見人制度を活用されている。後見人は定期的に訪問して、管理者や職員と話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時から話し合いを行い、書面及び口頭にて説明してご理解と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族の集いを開催して、ご家族との意見交換、交流の機会を作っている。運営推進会議にご家族、入居者の代表に参加して頂き、伺った要望を反映している。また、面会カードの記入欄など、日常的に要望を出して貰える環境づくりに努めている。	「家族の集い」を年2回開催している。前回は看取りの事例について意見交換を行った。家族の来訪時には、管理者、職員が積極的に声を掛け、意見や要望を引き出すようにしている。管理者は「家族との絆」を課題とし、家族との関係強化に職員と共に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝礼時や、月1回の職員ミーティングの機会がある他、個別の面談や日常の会話を通じて、管理者が職員の意見を聞くように努めている。	職員ミーティング、朝礼の機会に意見、要望を聴取している。また管理者は、日頃から気楽に相談できる雰囲気作りをし、意見、提案を引き出している。「家族に利用者の写真入り年賀状を出す」「記録書式の変更」「レクリエーションの企画」など、職員は積極的に提案している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から理事長に定期的に状況の報告を行う他、職員が直接理事長に面談して話している。 それをもとに会社として職場環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業所から委員を出して研修委員会をつくり。年間の研修計画に基づいて法人内の勉強会を実施している。 また、選ばれた職員が随時、認知症実践者研修や他の外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎年必ず、神奈川高齢者福祉研究大会に参加、発表している。 また、横浜市のグループホーム職員交換現場研修に参加し、自施設での新たな取り組みにつなげている。 管理者は、グループホーム連絡会を通じて、同業者との交流を図っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に数回ホームを見学して頂き、不安な点についてじっくりお話を伺い一つずつ対応していくことで、信頼関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に出来るだけ面談を行うと共に、入所後はご家族への状況報告をこまめに行って、一緒に考えながらケアを始めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の状況に応じて、面会の頻度や病院への受診について、相談しながら援助にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれのADLに応じて家事共同作業をお願いしている。洗濯、食器拭き、掃除、花の水やりなどを手伝っていただき、それぞれの出来ることを一緒に行うよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況を報告し、ご家族に面会に来て頂いたり、電話で話して頂くようお願いしている。 利用者様の誕生日に、ご家族を呼んで一緒に祝うよう勧めている。 また、年間の様々な行事には、ご家族の参加をお願いしている いただいたご家族の意見や指摘を大切に、ケアに活かす様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅当時から行きつけの歯科やマッサージを続けている他、馴染みのスーパーや美容院に連れて行っている。	かつてのコーラス仲間などの友人の訪問があった際は、リビングにお茶を出し、歓迎している。馴染みの美容院や商店に職員と共に行っている。地元に住んでいた方が数名おり、散歩の際には、地域住民と気軽に声を掛けあっている。月1度帰宅する利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの利用者様同士で一緒に行動してもらうように努め、席の配置も工夫している。日中はリビングで多く過ごし、皆でレクをするなどして、お互いの交流を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院先へのお見舞いと相談支援に努めている。また、単身者で亡くなった方については、ホームでお別れ会を行い、法人の慰霊祭にて供養を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との会話を多くして、思いの把握に努めている。本人からの訴えや言動については、ケース記録や申し送りで情報を共有しているが、さらに「気づきノート」の活用も行っていきたい。	日々の生活や会話の中で、利用者の意向の把握に努めている。言葉にしづらい利用者は、表情や態度から思いをくみ取っている。買物に出かける曜日、回数など利用者との約束事を作っている。地域包括支援センターの文化祭に、利用者の絵や編み物を出品するなど、趣味の継続にも取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に情報を頂くと共に。ご本人やご家族との面談にてお話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで各入居者様の状態を丁寧に報告し、現場職員と計画作成担当者が情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望と共に、ご家族にもケアへの要望を出して頂いている。 医療面では主治医の助言を受けて援助につなげている。 定期的なモニタリングについては、未だ頻度が少ない	6ヶ月に1回、モニタリングを行い、介護計画書の見直しを実施している。家族の希望、主治医の指示、職員の意見を反映した介護計画書としている。月1度の職員ミーティングでケアカンファレンスを行っており、業務が落ち着く時間帯として、20時からの開催としている。短期目標に対する援助内容の実施チェックは、「日勤日誌」と「夜勤日誌」に記載している。	援助内容の実施チェックをもとに目標の達成状況について月1回程度定期的にモニタリングを実施することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有は、個人記録の他、申し送りや連絡ノートにて、丁寧に行うよう努めている。日々の活動の様子は、一覧表で分かりやすく工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な帰宅援助や、前の施設へ遊びに行くなどしている。 その他、通院や外出、買物などご本人の希望には、出来るだけ対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容、美容、買物、外食を商店街の協力のもと実施している。 近隣の地域ケアプラザの行事に参加している。（コーラス、作品展示）		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人理事長がかかりつけ医となり、ご家族にも納得を得ている。また、状況によってその他の専門医に受診するケースも多く、援助を行っている。	法人理事長がかかりつけ医となり、月1度往診している。訪問看護師が週1回来訪している。同医師と看護師とは「身体精神状況報告書」を通じて、毎日利用者の状況を共有している。心臓内科、精神内科などの専門医への通院は、家族の対応を原則としているが、職員が付き添う場合も多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護の他に、身体状況の報告を毎日かかりつけ医と看護師にFAXしており、緊密に連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時からソーシャルワーカーと相談、調整を図っている。主治医による病状説明の際は、必ず管理者も同席している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に必ずご家族と話し合い、重度化した場合の対応について書面にて説明し、ご理解をいただいている。その後も、家族の集いで意見交換するなど、随時話し合いを行っている。ターミナルケアはこれまでお二人を实践した。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明している。重度化した場合は、「延命措置についての意思確認書」で方針を共有している。看取りを行なう場合は、主治医の説明を基に「看取り介護にかかる指針について」を説明し、「看取り計画書」を策定して家族の同意を得ている。事業所での看取りの事例が数例ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員を対象に、年二回普通救命講習を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を年2回行い、消防署や地域の方々にも参加して頂いている。 また、今年度は地震を想定した訓練も3回行った。 管理者と職員が、年1回地域の防災訓練にも参加している。 今年から、毎月防火活動日を設定して、ミーティングや清掃、訓練を行うことにした。	運営推進委員会議の開催に合わせ、消防署立会いの下、年2回の防災訓練を実施している。夜間想定訓練も行っている。加えて地震を想定した訓練を年3回実施している。また毎月防火活動日を定め、コンセント周りの清掃や内部での避難訓練を行っている。飲料水、生活水、食料の備蓄のほか、懐中電灯、ラジオ、防災ずきん、ヘルメットなどを準備している。地域の防災訓練へ参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護の勉強会を実施している他、日々の業務中に管理者や先輩職員が注意、指導を行っている。 法人内でサービスマナー研修を行い、言葉使いに細心の注意を払うよう心掛けている。	サービスマナー向上強化月間を設け、接遇研修を行い、職員相互による投票で優秀な職員を表彰している。家族とも相談して、利用者が好む声かけを見出し、対応している。音楽教師だった利用者には歌レクリエーションで活躍してもらうなど、職歴、生活歴を大事にした支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを図りながら、希望を聞きだすように努めている。 食べたいメニューや、おしゃれ、余暇活動についても希望を聞いて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースに合わせて、食事の時間や日中の過ごし方を考えている。 また、本人の希望を伺って外出も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものを選んでいただき、行ける方は一緒に洋服の買物をしている。 また、希望に応じて美容院へ同行している。 希望者にはネイルや髪飾りをして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて、簡単な調理や配膳、洗い物などをお願いしている。定期的に行事食や出前食も取り入れている。食事前には一緒に嚥下体操をして声を出している。	食材配達業者から毎日食材とメニューが届いているが、利用者の好みにより調理にアレンジを加えている。職員も利用者と同じテーブルに付き、同じものを食べている。可能な利用者は、テーブル拭き、配膳、下膳、食器洗いなどを職員と一緒にやっている。月に1回、利用者の希望による「お楽しみ食」を提供している。誕生日には家族も参加し、職員の手作りケーキでお祝いしている。出前の利用や外食なども実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて食事形態を変え、介助も行っている。水分は好みに応じてジュースや牛乳も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の人以外は、朝夕に口腔ケアを行っている。また、夜間に入れ歯の管理も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は定時の声掛けに加え、希望時にトイレ誘導し対応している。夜間は個々人のリズムに合わせて、トイレの声掛けを実施している。	食後のトイレ誘導に加え、排泄チェック表でパターンを把握してトイレ誘導を実施している。夜間は、睡眠を優先して、オムツで過ごす利用者には、3時間ごとに清潔保持をしている。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を多くすすめる、牛乳やヨーグルトを提供している。便秘時には、下剤の使用も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は決めず、日中にご本人の希望を聞きながら対応している。 夜間は行っていない。	週2、3回、入浴を実施している。曜日は特に決めず、時間帯は原則午後だが、希望により柔軟に対応している。皮膚疾患のある利用者は入浴とシャワー浴を併用し、毎日ケアしている。入浴を好まない利用者は、声かけを工夫し促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人に合わせて入床、起床時間をずらし、寝付けないときはお話を聞いて対応している。 日中の昼寝やソファでの休息もして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、ユニットリーダーを中心に内服薬についての理解を深め、申し送りやノートを通じて他職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に応じた家事のお手伝いをお願いしている。 また、歌レクや外出の支援をしている。 人により夕食時にビールの提供も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事として、月1回程度の日帰り外出レクや、一泊旅行を行っている。 歩ける方は、週2回の買い物や散歩を行っている。	天気のよい日は散歩や買物を楽しんでいる。車いすの利用者も週1度は出かけるようにしている。ベランダで外気浴する利用者もいる。ほぼ毎月外出行事を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族協力の元、現金は紛失してもいい金額を所持して頂いている。また、必要時に授受を交わし、希望の金額をお渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望を聞きながら、定期的にご家族に電話したり年賀状を書くなどの支援をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を心がけ、リビングではテレビや音楽をかけて、過ごしていただいている。 季節にちなんだ飾り付けや、利用者様の作品展示も行っている	リビングの壁には利用者の書道や塗り絵の作品が飾られている。また利用者が見て分かるように大きな「日課表」が貼られ、食器拭きや犬の散歩など、一日の予定が時系列で書き込まれている。回廊造りの中庭から自然光が差し込み明るい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置、テーブルの配置に工夫している。 利用者の状況を考慮し、その都度席替えも行っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇を持ち込んで頂き、ご家族の写真なども飾っている。	居室の窓はベランダに出ることができる掃きだし窓となっており、外気浴を楽しむ利用者もいる。利用者は馴染みのものを持ち込み、居心地良く暮らせる空間としている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーな設計の空間である。また、各居室に名前を貼って本人が覚えやすくしている。			

事業所名	かわしまの園
ユニット名	いちよう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念と、サービスマナーに関する月間目標を掲げ、毎朝礼時に職員皆で復唱して、ケアにつなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りや運動会など行事参加や、保育園や小中学校との交流機会を、定期的に行っている。 3ヶ月に1度地域の清掃に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の地域ケアプラザにて、認知症とグループホームについての講座を行い、一般参加者の施設見学も受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施し、活動状況を報告し委員の意見を伺って、サービスの改善に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議議事録を担当係長に持参報告。また、生活保護担当ケースワーカーと緊密に協力して、入居者の処遇に当たっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関前はすぐ道路で交通量が多いため、安全の為玄関を施錠している。 その他に身体拘束は行っていない。 勉強会を通じて職員の意識も高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止の強い決意を持ち、虐待に付いての職員勉強会を実施している。 また、日々のケア現場でこまめに助言を行っている。 また、サービスマナー向上の取り組みを、継続的に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度まで2名の入居者様が、後見人制度を活用されていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時から話し合いを行い、書面及び口頭にて説明してご理解と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映	年に2回、家族の集いを開催して、ご家族との意見交換		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p> 利用者や家族等と意見交換、交流の機会を作っている。運営推進会議にご家族、入居者の代表に参加して頂き、伺った要望を反映している。また、面会カードの記入欄など、日常的に要望を出して貰える環境づくりに努めている。 </p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝礼時や、月1回の職員ミーティングの機会がある他、個別の面談や日常の会話を通じて、管理者が職員の意見を聞くように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から理事長に定期的に状況の報告を行う他、職員が直接理事長に面談して話している。 それをもとに会社として職場環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業所から委員を出して研修委員会をつくり。年間の研修計画に基づいて法人内の勉強会を実施している。 また、選ばれた職員が随時、認知症実践者研修や他の外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上	毎年必ず、神奈川高齢者福祉研究大会に参加。発表してい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>代表者は、同業者との交流を積極的に行っている。</p> <p>また、横浜市のグループホーム職員交換現場研修に参加し、自施設での新たな取り組みにつなげている。</p> <p>管理者は、グループホーム連絡会を通じて、同業者との交流を図っている</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に数回ホームを見学して頂き、不安な点についてじっくりお話を伺い一つずつ対応していくことで、信頼関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に出来るだけ面談を行うと共に、入所後はご家族への状況報告をこまめに行って、一緒に考えながらケアを始めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の状況に応じて、面会の頻度や病院への受診について相談しながら援助にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれのADLに応じて家事共同作業をお願いしている。洗濯、調理、配膳、食器洗い、自室の掃除、犬の世話など。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係	ご本人の状況を報告し、ご家族に面会に来て頂いたり、電		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<p>利用者の誕生日に、ご家族を呼んで一緒に祝うよう勧められている。</p> <p>また、年間の様々な行事には、ご家族の参加をお願いしている</p> <p>いただいたご家族の意見や指摘を大切に、ケアに活かす様努めている。</p>		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅当時から行きつけの歯科やマッサージを続けている他、馴染みのスーパーや美容院に連れて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの利用者様同士で一緒に行動してもらうように努め、目の不自由な方の手助けや、落ち着かない時にそばで寄り添うなど、助けていただいている。 席の配置も工夫している。日中はリビングで多く過ごし、皆でレクをするなどして、お互いの交流を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院先へのお見舞いと相談支援に努めている。また、単身者で亡くなった方については、ホームでお別れ会を行い、法人の慰霊祭にて供養を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との会話を多くして、思いの把握に努めている。本人からの訴えや言動については、ケース記録や申し送りで情報を共有しているが、さらに「気づきノート」の活用も行っていきたい。		
24		○これまでの暮らしの把握	入所時に情報を頂くと共に、ご本人やご家族との面談にて		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等についてお話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで各入居者様の状態を丁寧に報告し、現場職員と計画作成担当者が情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望と共に、ご家族にもケアへの要望を出して頂いている。 医療面では主治医の助言を受けて援助につなげている。 定期的なモニタリングについては、未だ頻度が少ない		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有は、個人記録の他、申し送りや連絡ノートにて、丁寧に行うよう努めている。日々の活動の様子は、一覧表で分かりやすく工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な帰宅援助や、前の施設へ遊びに行くなどしている。 その他、通院や外出、買物などご本人の希望には、出来るだけ対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容、美容、買物、外食を商店街の協力のもと実施している。 近隣の地域ケアプラザの行事に参加している。（コーラス、作品展示）		
30	11	○かかりつけ医の受診診断	法人理事長がかかりつけ医となり、ご家族にも納得を得て		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	また、この家族にも納得が得られている。また、状況によってその他の専門医に受診するケースも多く、援助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護の他に、身体状況の報告を毎日かかりつけ医と看護師にFAXしており、緊密に連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時からソーシャルワーカーと相談、調整を図っている。主治医による病状説明の際は、必ず管理者も同席している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に必ずご家族と話し合い、重度化した場合の対応について書面にて説明し、ご理解をいただいている。その後も、家族の集いで意見交換するなど、随時話し合いを行っている。ターミナルケアはこれまでお二人を実践した。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員を対象に、年二回普通救命講習を実施している。		
35	13	○災害対策	夜間を想定した避難訓練を年2回行い、消防署や地域の		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<p>各団体、町民会、地元の方々にも参加して頂いている。</p> <p>また、今年度は地震を想定した訓練も3回行った。</p> <p>管理者と職員が、年1回地域の防災訓練にも参加している。</p> <p>今年から、毎月防火活動日を設定して、ミーティングや清掃、訓練を行うことにした。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護の勉強会を実施している他、日々の業務中に管理者や先輩職員が注意、指導を行っている。 法人内でサービスマナー研修を行い、言葉使いに細心の注意を払うよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを図りながら、希望を聞きだすように努めている。 食べたいメニューや、おしゃれ、余暇活動についても希望を聞いて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースに合わせて、食事の時間や日中の過ごし方を考えている。 また、本人の希望を伺って外出も行っている。 本人と相談して日課表を作っている方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援	その日に着るものを選んでいただき、行ける方は一緒に洋		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<p>また、洋服の買物をしている。また、希望に応じて美容院へ同行している。</p> <p>希望者にはネイルや髪飾りをして頂いている。</p>		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>その方の能力に応じて、簡単な調理や配膳、洗い物などをお願いしている。</p> <p>定期的に行事食や出前食も取り入れている。</p> <p>食事前には一緒に嚥下体操をして声を出している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて食事形態を変え、介助も行っている。水分は好みに応じてジュースや牛乳も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の人以外は、朝夕に口腔ケアを行っている。また、夜間に入れ歯の管理も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は定時の声掛けに加え、希望時にトイレ誘導し対応している。夜間は個々人のリズムに合わせて、トイレの声掛けを実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を多くすすめ、牛乳やヨーグルトを提供している。便秘時には、下剤の使用も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は決めず、日中にご本人の希望を聞きながら対応している。夜間は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人に合わせて入床、起床時間をずらし、寝付けないときはお話を聞いて対応している。 日中の昼寝やソファでの休息もして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、ユニットリーダーを中心に内服薬についての理解を深め、申し送りやノートを通じて他職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に応じた家事のお手伝いや、嚙下体操の司会などをお願いしている。 また、歌レクやカラオケ、外出の支援をしている。 希望に応じて、好きなおやつやおかずを買っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事として、月1回程度の日帰り外出レクや、一泊旅行を行っている。 歩ける方は、週2回の買い物や散歩を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援	ご家族協力の元、現金は紛失してもいい金額を所持して頂		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。また、必要時に授受を交わし、希望の金額をお渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望を聞きながら、定期的にご家族に電話したり年賀状を書くなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を心がけ、リビングではテレビや音楽をかけて、過ごしていただいている。 季節にちなんだ飾り付けや、利用者様の作品展示も行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置、テーブルの配置に工夫している。 利用者の状況を考慮し、その都度席替えも行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇を持ち込んで頂き、ご家族の写真なども飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーな設計の空間である。また、各居室に名前を貼って本人が覚えやすくしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 かわしまの園

作成日 27年 7月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画書作成にあたって事前に家族との話し合いの場が持たれていない	定期的に家族とカンファレンスする機会を作り、介護計画書に家族の意見をしっかりと反映する	3ヶ月に1回、個別に家族を呼んで話し合いの機会を作り、状況報告と意見交換を行う	3ヶ月
2	48	利用者の自立度に差があり、毎日の生活の中で、それぞれに合った役割や楽しみが必要である	各利用者ごとに、毎日の活動プログラムを設定し、1日1つでも本人の役割や楽しみを作って、充実感を持ってもらう	利用者、家族と話し合い、活動目標と簡単なプログラムを設定する。毎日の活動記録をつけて実施評価する	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。